

※まず教科書本文に通し番号（五行ごと）を振ってください。55行目まで（全部で58行）振ることができると思います。

問一 この文章で「対立概念」になっているものを抜き出さない（複数可）。

問二 次の「対立概念」の言い換えを本文中からそれぞれ三つずつ抜き出さない。  
「鹿おどし」⇄「噴水」

問三 筆者は「鹿おどし」と「噴水」のどちらに主軸をおいて述べようとしているか。理由も含めて答えなさい。

問四 L12 「曇った音響く引き立てる」とあるが、「音」が「静寂」を引き立てるような例を挙げなさい。

問五 L16 「それをく強調していると言える」について、

- ① 「それ」とは何を指しているか本文中から抜き出さない。
- ② 「この仕掛け」が「流れてやまない存在を強調」するのはなぜか答えなさい。

問六 西洋のL32 「町の広場」やL33 「庭園」と対比する概念を答えなさい。

問七 L35 「壮大な水の造形」を比喩的に示した言葉を十字以内で抜き出さない。

問八 L37 「音を立てて空間に静止している」とはどういうことか。「鹿おどし」と比較して説明しなさい。

問九 L39 「日本の伝統の中に噴水というものは少ない」とあるが、それはなぜか。その理由を二つ答えなさい。

問十 L55 「われわれはく見る必要さえないと言える」のはなぜか、分かりやすく説明しなさい。

問十一 L56 「その間隙に流れるもの」とは何か、答えなさい。